

「緊張しても人見知りはしない私」

大阪府 吉名ハレ

その日、私は非常に緊張していた。初めて彼氏の家に遊びに行くのだ。数日前からお腹がゆるい。が、私には更なる緊急事態が起きていた。

前日、我が家での家族会議で、手土産を何度か耳にした事のある、地元のお焼きにした。そして待ち合わせの2時間前に、私はそのブーツを買いに走った。

「これから初めて彼氏の家に行くんです」「それは緊張するわー。オバちゃんも自分の息子の彼女が家に来た時は、緊張したわ」「本当に〜？」

という世間話を売り場のオバちゃんと交わし、「ハキハキ挨拶できる女の子は母親のポイントが高い」という情報を教えてもらう。「がんばってな！」と励まされ、手を振りながら元気に改札を通った私。そして、そこで重大なミスに気づいた。私の右手にはお焼き（20個入り）が握られているのだが、左手には数分前に間違えて買った酒饅頭（10個入り）が握られていたのだ。私はブーツを見た事がなかったため、お焼きではなく別の店の酒饅頭を買ってしまった。明らかに蒸し器から取り出していたのに、何の疑問も持たずに。そして満足して駅に戻る途中に、見つけてしまったのだ。両方買ってしまったのだが、酒饅頭（10個入り）とお焼き（20個入り）では、おかしな女の子だ。返品はお店の人に悪い。家に戻るのには時間が無い。出来立てを捨てる事はできない。鞆には入らない。私に残された選択肢はただ一つ。「酒饅頭をたべきる。」

初めて彼氏の家に遊びに行くのに間違えて買った酒饅頭を、待ち合わせの1時間前に梅田駅のホームのベンチに座って半ベツで食べるなんて、関西で私が一番初めに体験しただろう。そんな事を思いながら口にほおぼるが、ごく普通の女子大学生には、7個が限界だ。お焼きの箱に押し込めて、異色のコラボレーションも頭をかすめたが、綺麗に包装してくれたオバちゃんに申し訳ない。悩んだ挙句、隣のベンチに座っていたオバちゃんに声をかけた。

「酒饅頭いりませんか？」

最初は驚かれたものの、事情を話すと快く貰ってくれた。これぞ、関西。その一件で、このオバちゃんと打ち解け、楽しい時間を過ごした。

彼氏の家に向かう途中の電車で、中身のない酒饅頭の袋と包装紙を見せながら報告した。「本当にこの子を家に連れて行っていいのだろうか」という顔をして硬直していたが、そんなの関係ない。関西のオバちゃんのあったかいパワーに触れられたのだから。